

令和 4 年 4 月 15 日

教 育 長 様

(※受付番号 )

研究コース
A グループ研究A
校園コード (代表者校園の市費コード)
561154

代表者	校 園 名 :	大阪市立九条北小学校
	校園長名 :	吉岡美由紀
	電 話 :	06-6581-0761
	事務職員名 :	山路理恵
申請者	校 園 名 :	大阪市立九条北小学校
	職名・名前 :	首席・牧園浩亘
	電 話 :	06-6581-0761

## 令和4年度 「がんばる先生支援」研究支援 申請書

◇本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

1	研究コース	コース名	A グループ研究A	研究年数	新規研究 (1年目)
2	研究テーマ	言葉に対して自覚的になる子どもの育成 ～児童が主体的に取り組む国語授業づくりを通して～			
3	研究目的	<p>テーマに合致した目的を端的に記載してください。</p> <p>○「言葉による見方・考え方を働かせる力」をもつ児童の育成</p> <p>令和2年度大阪市学力経年調査における「国語科の教科概要」カテゴリ別正答率(領域における分類)より、次の平均正答率に本校児童の課題があることが分かった。</p> <p>「情報の扱い方に関する事項」「言葉の特徴や使い方に関する事項」「読むこと」</p> <p>それぞれの課題の土台となる共通項(国語科の授業を通して系統的に身に付けさせたい力)が語彙力であると考え、昨年度「語彙力を身に付ける指導法の工夫」をテーマに校内研究に取り組んだ。昨年度の校内研究を受けて、上記の研究テーマを設定した。児童の語彙力を高めるためには、まず指導者が言葉に対して自覚的になり、教材分析を行い、授業を改善する必要があると考えた。そのため、素材研究、教材研究の方法等、国語授業づくりについての研究を推進し、教員の授業力向上を図ることをねらいとしている。そのことが「言葉による見方・考え方を働かせる力」をもつ児童の育成につながると考えている。</p>			
4	研究内容	<p>継続研究は、前年度の成果と課題を分析した内容を踏まえて記載してください。</p> <p>平成29年度版学習指導要領では、全ての教科等で、各教科等それぞれの学習の特質に応じた「見方・考え方」が示されている。国語科の目標は次のようになっている。</p> <p>「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。」</p> <p>国語科の特質に応じて整理されている「見方・考え方」は、「言葉による見方・考え方」である。本校児童の課題の共通項であると考えた語彙力も、広義に解釈すれば「言葉による見方・考え方」を働かせられる力と捉えることができる。本校の研究テーマは、学習指導要領の国語科の目標に即したテーマであり、「言葉による見方・考え方」即ち「言葉に対して自覚的になる」児童の育成を図ることは、本校児童の国語学力の課題を克服することにつながると考える。児童が「言葉に対して自覚的になる」には、まず指導者が言葉に対して自覚的になる必要があると考えた。そのため、国語授業づくりについて、教職員集団で研究を進めていきたい。具体的に、次のような内容・方法で研究を進めていく。</p> <p>①指導者が「言葉に対して自覚的になる」。素材研究のための研修の実施</p> <p>・教材研究の前提となる、素材研究について研修を重ねる。例えば、物語教材をどう授業するのかではなく、一読者として物語を読んだときに、どのような感想をもつのか、叙述のどの部分に感銘を覚えたのか。教師が言葉に自覚的になるための研修を実施する。素材研究のための研修を生かして、研究授業を実施し、授業内容を検証していく。</p> <p>②児童が「言葉に対して自覚的になる」。国語授業づくりのための研修、授業研究</p> <p>・大阪市小学校教育研究会国語部所属教員による研修会や、外部講師を招いた研修会を、毎月の校内研修に組み込んでいく。国語授業づくりに特化した研修を実施していく。その研修会の内容をもとに、研究授業を実施し、授業内容を検証していく。授業改善が図られれば、自ずと児童が主体的・対話的に取り組む国語になり、深い学びにつながれると考えている。ワークテストをもとに研究成果の検証も行う。</p> <p>③「言葉に対して自覚的になる」授業のイメージをもつ。師範授業による授業研究</p> <p>・児童が主体的に取り組む国語授業を創るためには、児童が主体的に取り組む国語授業のイメージが必要である。外部講師を招き、本校児童に師範授業を行ってもらう。また、研究内容は公開し、大阪市小学校の教員の参加を募り、さまざまな視点で授業内容の検証を行う。</p>			

5	活動計画	<p>日程や内容など、研究の過程がわかるように詳細に記載してください。</p> <p>4月 研究テーマ・目的・内容・見込まれる成果等の検討</p> <p>5月 教員・児童への事前アンケート作成・実施・分析 「国語授業づくり」に特化した校内研修会（以降、月1回以上） 研究授業（公開）・師範授業・授業づくり研修会 【講師：岡山県元小学校教諭 甲本卓司先生】</p> <p>6月 ワークテスト実施・分析 研究授業（公開）・師範授業・授業づくり研修会 【講師：筑波大学附属小学校教諭 青木伸生先生】</p> <p>7月 研究授業・師範授業・授業づくり研修会【講師：未定】</p> <p>8月 1学期の実践を振り返り、2学期以降の研修計画の作成。 公開授業の指導案作成。</p> <p>9月 研究授業・師範授業・授業づくり研修会【講師：未定】</p> <p>10月 研究授業・師範授業・授業づくり研修会【講師：未定】</p> <p>11月 公開授業研究会（参加者アンケート）・研修会 【講師：岡山県元小学校教諭 甲本卓司先生】</p> <p>1月 研究授業・師範授業・授業づくり研修会【講師：未定】 教員・児童への事後アンケート実施・事前アンケートとの比較・分析・結果の考察</p> <p>2月 ワークテスト実施・分析 研究のまとめ作成</p>
6	見込まれる成果とその検証方法	<p>大阪市教育振興基本計画に示されている、<u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u>および<u>教員の資質や指導力の向上</u>について、見込まれる成果を端的に記載し、その成果について、客観的な指標により必ず数値で示すことができる検証方法を記載してください。</p> <p>【見込まれる成果1】 毎月の校内研修、研究授業、外部講師による師範授業・授業づくり研修会を、国語授業づくりに役立てる。</p> <p>《検証方法》 公開研究会参加者教員に対してアンケートを実施し、「公開授業を観て、自身の国語授業づくりの参考になった」の項目について、肯定的な回答をする割合を80%以上にする。</p> <p>【見込まれる成果2】 「言葉による見方・考え方を働かせる力」をもつ児童を育成するための授業づくりについての意識が高まり、指導者自身も「言葉に対して自覚的になる」ことをめざす。</p> <p>《検証方法》 教員アンケートを実施し、「校内研修は充実していた」の項目について肯定的な回答を90%以上にする。また、「国語科の授業づくりを行う際、教材の着眼点が分かるようになった」の項目についても肯定的な回答を90%以上にする。</p> <p>【見込まれる成果3】 国語授業に対する児童の意欲が高まり、主体的に授業に取り組む児童の育成をめざす。</p> <p>《検証方法》 児童アンケートを実施し、「国語の授業が好きですか」「国語の授業はわかりますか」の項目について、年度始めと比較して、肯定的な回答を5ポイント上昇させる。</p>

6	見込まれる 成果とその 検証方法	<p>【見込まれる成果4】 言葉に対して自覚的になる子どもの育成し、国語の授業を通して身に付けた言葉の力を他の教科・領域、日常生活にも広げることができる児童の育成をめざす。</p> <p>《検証方法》 児童アンケートを実施し、「国語で身に付けた力を他の学習に生かせましたか」の項目について、年度始めと比較して、肯定的な回答を5ポイント上昇させる。</p> <p>【見込まれる成果5】 言葉に対して自覚的になる子どもの育成し、国語科で何を学んでいるのかを自覚できる児童の育成をめざす。</p> <p>《検証方法》 児童アンケートを実施し、「国語で学んだ用語」の記述をもとに、国語科の学習内容の高まりについて分析を行う。 ワークテストを実施し、年度始めと比較して正答率を2ポイント上昇させる。</p>				
7	研究成果の 共有方法	<p>◆研究発表【必須】 報告書提出日（令和5年2月24日）までに必ず行ってください。</p> <p>○研究発表の日程・場所（予定）</p> <table border="1" data-bbox="405 969 1463 1043"> <tr> <td>日程</td> <td>令和 4 年 11 月 2 日</td> <td>場所</td> <td>大阪市立九条北小学校</td> </tr> </table> <p>◆代表校園HPでの共有【必須】</p> <p>他の共有方法を計画している場合は記載してください。</p>	日程	令和 4 年 11 月 2 日	場所	大阪市立九条北小学校
日程	令和 4 年 11 月 2 日	場所	大阪市立九条北小学校			
8	代表校園長 のコメント	<p>「言葉に対して自覚的になる子どもの育成」という研究テーマは、学習指導要領の求める資質・能力と一致する点であり、なおかつ本校児童の課題に即した研究テーマである。また、主体的に取り組むというサブテーマは、大阪市のめざす児童の姿とも共通する点である。そのための方法として、教職員集団が「言葉に対して自覚的になる」ための研修計画、授業づくり研究、外部講師による師範授業は、本校教員の授業改善につながり、児童の学力向上につながる研究であると期待できる。また、研究内容・方法を積極的に発信することで、大阪市教員の授業改善にもつながると考えている。このような視点から、本研究の推進は、国語科授業づくり、児童の国語核力向上に効果的であると考えます。</p>				